

【まだまだ若いものには負けられない！ 素敵な仲間と美味しいトマトで地域再生！】

企業組合遊子川 ザ・リコピンス代表理事
辻本 京子 氏（愛媛県西予市）



平成30年10月4日（木）第4回農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナーを【まだまだ若いものには負けられない！素敵な仲間と美味しいトマトで地域再生！】企業組合遊子川 ザ・リコピンス代表理事 辻本 京子 氏（愛媛県西予市）を開催しました。

辻本さんの経歴から移住に至るまでの移住後のトマトへの想い、地域の人々と一緒に取り組む企業組合活動など楽しく語っていただきました。

農村女性活躍の場としての企業組合遊子川 ザ・リコピンスの発足の背景には、長年にわたる公民館活動の部会活動など人の輪をつくり結ぶ地域活動の下地が大きな実を結んでいると思いました。

農村女性が楽しみながら地域活動するキャッチフレーズは「まちづくり」「ひとつづくり」そして「わかづくり」リコピンでみためも、こころも、若づくり。納得です。

遊子川 ザ・リコピンスが製造販売しているトマト加工品は「里の物語」のオンラインショップでも購入できます。リコピンス トマト加工品セット

<https://satomono.com/?pid=131482864>

また、愛媛県西予市遊子川への移住促進するためのPRビデオ（ダイジェスト）について辻本さんの活動他を紹介していますのでご案内します。

<https://www.youtube.com/watch?v=LN2-7CaaNOI>

なお遊子川ザ・リコピンズが運営する食堂「ゆすかわ」の概要は里の物語の先のサイトでご覧になれます。<https://satomono.jp/restaurant/38214/426/>
辻本さん、ご参加いただきました皆さんありがとうございました。

奈良県から移住した夫婦が高地であることを活かしたトマト栽培とそのトマト加工品づくりで、地域の農家女性取り組む6次産業化を紹介しました。

愛媛県西予市城川町遊子川（ゆすかわ）は愛媛県南予北部に位置し、東部は高知県梶原町と四国山地の分水嶺をもって接しています。標高100m～1,100mと急峻な地形のなかで、トマト、ピーマン、ししとう等様々な農作物が作られ、住民の高齢化率は50%を超える約300名の地域です。

2010年に遊子川地域活性化プロジェクトチーム（会員：全住民、年会費：1世帯当り1,000円、事務局遊子川公民館）を設立し、アンケート調査結果に基づき、集落づくり計画書を作り、体制を整備して、持続可能で発展的な地域づくりを目指して様々な活動を展開して、交流人口の拡大（年間約3,000人）、地域経済の活性化・生産者の収益向上、自主財源の確保、地域コミュニティの活性化などが進めています。

辻本さんは、農業経験はありませんでしたが「トマト栽培を始めていた知人の誘いで、2002年に遊子川を訪問して、トマトが大好き」という思いから主人を説得して奈良県から移住しました。

3年後には休耕地を買い取り、2012年には、トマト農家の女性を中心に20名で規格外トマトの加工商品開発をはじめ『遊子川特産品開発班』の代表を務めています。また、2014年4月からは、農家レストラン「食堂ゆすかわ」（旧JA施設を活用、毎週水曜日と第4日曜日を営業日）をオープンするほか商品開発を進めていた自家製「トマト酢」を使った『トマトユズポン酢』の販売をスタート。仲間とともにトマトの加工作業、レストランでの調理、さらに、ご主人と一緒にトマト栽培に取り組む多忙な日々を送っています。

第15回オーライ！ニッポン大賞 ライフスタイル賞受賞。また遊子川地域活性化プロジェクトを支える遊子川公民館は、文部科学省が実施する第69回優良公民館表彰で最優秀館に選定されました。（2015年10月現在、全国の公民館数は1万4,171館）この公民館活動では地域住民自らが地域課題の把握と解決に向け、様々なテーマを設けて開催する学習会「夢かけるフォーラム遊子川」を27年間継続してきたことによって、地域住民が主体となって取り組む体制が構築され、世代や職種などを越えた住民の一体感の醸成につながっていること。また、地域の伝統文化の保存伝承に努めて愛郷心を育てるとともに、地域の豊富な森林資源を活用して木工文化を導入したり、地域住民手作りの自主企画映画に挑戦したりするなど、地域のコミュニティ力の向上や持続可能な住民活動に大きな成果が上がっています。



辻本さんの活動経緯メモ

- 2002年 遊子川でトマト栽培を始めていた知人の誘いで、初めて遊子川を訪問。
- 2002年 夫婦ともに農業未経験であったが、「トマトが大好き」という思いから、主人を説得し遊子川に移住してトマトの栽培に取り組むことを決意し移住。
- 2005年 休耕地を買い取り、初めて自分たちの農地を持つ。苗を定植したばかりのハウスが暴風で倒壊。「もう無理！奈良に帰ろうか」と諦めかけていたところに、周りの農家さんたちが、駆けつけていただき皆さんで壊れたハウスを立て直し、苗を植え替える作業を手伝っていただき、危機を乗り越えた。
- 2010年 全住民参加による地域活性化のための組織が結成され、その活動計画の一つ『特産品開発事業』で公民館の婦人学級料理教室で、規格外トマトを使った加工品開発の研究を開始。
- 2012年 トマト農家を中心とした女性20名による『遊子川特産品開発班』活動が始まり、代表を努める。
- 2013年度 旧JAの空き施設を改修し加工所とレストランとして整備する。
- 2014年4月 農家レストラン「食堂ゆすかわ」をオープン。同時に商品開発を進めていた自家製「トマト酢」を使った『トマトユズポン酢』の販売をスタートする。
- 2016年4月 遊子川ザ・リコピンスを企業組合として法人化。
- 2017年 第1回地域産業おこし大賞 優秀賞
- 2018年3月 第2のライフスタイルを精力的に満喫している点が評価されて、第15回（平成29年度）オーライ！ニッポン大賞ライフスタイル賞受賞。